

# 2023年韓国図書館大会参加報告

松山 巖 (玉川大学)

## はじめに

日本では毎年秋に全国図書館大会が行われますが、韓国でも韓国図書館協会が主催する全国図書館大会が開かれています。筆者は昨年(2023年)この大会に参加してきました。隣国の図書館界のリアルな姿を見て、個人的にもいろいろと学ぶところがありましたので、簡単に報告したいと思います。

## 1 大会概要

正式名称は 제 60 회 전국도서관대회・전시회 (第60回全国図書館大会・展示会) です。この大会は毎年10月に行われ、韓国国内の図書館業界団体や学術団体が一堂に会して行う、韓国図書館界で最大規模のイベントです。

イメージとしては、日本の図書館大会と図書館総合展を足して2で割るのではなく、足して2を掛けたと思ってください。今回の参加者は3249名。韓国の人口は日本の約4割です。単純に人口比例で計算すると(乱暴ですが)日本ならざっと8000人程度に相当するわけで、ちょっと驚異的な数字です。

主催は韓国図書館協会(KLA)が中心となり、韓国国内のさまざまな図書館関係団体が共同で加わっています。

開催地は毎年変わり、今回は韓国南部のリゾート地、<sup>チェジュ</sup>濟州島にある濟州国際コンベンションセンターで2023年10月18日から20日まで開かれました。ちなみに2024年は<sup>カンウォン</sup>江原道旌善郡のハイワンリゾートで2024年10月16日から18日まで開かれます。

毎年テーマ(スローガン)があり、今回は“발전의 60년, 함께하는 도서관의 미래”(発展の60年、ともに歩む図書館の未来)です。

大会の日程概要は次の通り。

- 第1日午後：開会式、만남의 자리 (出会いの場=立食レセプションパーティー)
- 第1日夕方、第2日：シンポジウム、セミナー等
- それらと並行して第1日午前~第2日夕方：展示会
- 第3日：地元の図書館探訪

第1日・第2日では、研究発表や事例発表、シンポジウム、セミナー等、12の会場に分かれて行われた発表が58件あり、筆者はそのうち5件に出席しました(次の節で少し詳しく紹



会場の記念撮影スポットにて



左から、李在善(イ・ジェソン) KLA 事務総長、陳伝夫(チェン・チャンフー) 中国図書館学会副理事長、クック・スンジン KLA 会長、筆者

介します)。また、同時に開かれた展示会では、ポスターセッションが16件、展示会場のブースが138件出ていました。

私が韓国の全国図書館大会に参加するのは、2012年の高陽<sup>コヤン</sup>大会、2016年の大邱<sup>テグ</sup>大会に次いで3度目です。2012年の時は純粋な一個人として参加しましたが、前回と今回は、日本図書館協会(JLA)の国際交流委員をつとめている関係で、JLAの理事長の代理として参加しました。そのため、開会式で理事長の祝辞を代読したり、午餐会に出席したりといったミッションがありました(本報告ではミッションの詳細は省略します)が、それ以外はさしあたっては自由です。2016年のときは、当初先方から示されたスケジュール表には、ミッションが終了したら地元(大邱市)を観光する案が示されていました。おそらく、それまで外国からゲストが来た際にはそのように対応しており、ゲストからも特に要望はなかったのでしょう。しかし、せっかく韓国の図書館の現状や課題について熱い議論が戦わされていたり、貴重な資料が配布・販売されていたりするのに、そちらを見ずに観光に行ってしまうのはあまりにももったいない。観光はいつでも来られますが、大会はこの3日間しかないのです。そこで、韓国国内の一般参加者と同じように動きたいと希望したら、通りました。今回は、その前例があったためかわかりませんが、スケジュール表が示される前に、大会期間中の動き方について先方からメールで打診があったので、たくさん見て回りたいと答えたところ、そのようなスケジュールを組んで下さいました。

## 2 展示会、開会式、「出会いの場」

大会初日は午前10時から、展示会場に入れるようになっていました。会場に収まりきらずに通路に出しているブースもありました。ただし、その中で大きな幕で遮られて入れない一角がありました。ここは、「すぐれた図書館活動」として表彰された図書館がブースを出して取り組みを紹介しているのですが、午後の開会式の中で表彰されるため、それが済むまでは受賞館が分からないように伏せてあるのです。

13時10分～13時30分はホールの入口で開幕式。赤いカーペットの上でテープカットをしました。続いて、会場の中に入って13時40分～15時20分まで開会式。60周年の祝辞が各方面から寄せられ、日本からは植松貞夫JLA理事長の祝辞を私が代読しました。祝辞そのものは日本語で読み上げ、スクリーンにハンゲルの字幕が表示されるのですが、最初の挨拶だけは韓国語でしました。

前回(大邱大会)のときは、この韓国語の挨拶がかなり強い印象を与えたようで、あとで知らない人から声を掛けられたりしたので、今回もどんな挨拶をしようかといろいろ考え



展示会場のホールに収まりきらず、ロビーにも並ぶブース



テープカット



ていったのですが、先方の事務総長から「時間厳守、3分以内!」とのお達しがあり、また、祝辞自体も長めで、普通に読んだら5分近くかかることが分かったので、挨拶は最低限にせざるを得ませんでした。それどころか、原稿も字幕と食い違わない範囲内で言葉を短くしたり、多少早口で読み、少しでも進行の妨げにならないようにしました。

その後、上で述べたすぐれた図書館活動に対する表彰式がありました。文字通り厳正公正な審査を経て、公共図書館、学校図書館など館種別に選ばれると、会場は大いに盛り上がりました。軍の図書館や刑務所の図書館の部門もありました。さらには、すぐれた司書の表彰、来年度の開催地の発表などもありました。

15時30分からは、会場を別のホールに移して、「出会いの場」という立食形式の歓迎パーティーがありました。海女さん（チェジュ島は海女で有名）をモチーフにした歌と踊りが披露されたり、入場券に記された番号で抽選会が行われたり、1時間という短時間の中に盛りだくさんなイベントがありました。ただ、残念ながら（当然かもしれませんが）来賓が首から提げているネームプレートには番号がないので、私たちが当たることはありません。抽選会の景品にはサムソンの製品が多く、さすが韓国という感じで、1等はかなり性能の良いノートPC。抽選のボタンは、歴代のKLA会長が押ししていましたが、最後の1等は「未来の司書」ということで、図書館情報学を専攻する大学2年生が押しました。

### 3 大会の歌

ところで、この出会いの場のイベントの1つとして、3人組のアーティストが歌を何曲か披露したのですが、そのうちの1曲が「僕と図書館大会に行かないか」という歌でした。

今回の大会では、おそらく初の試みとして、広報用の歌が作られ、大会の約2か月前の8月18日に大会公式サイトおよびYouTubeで公開されました。その名も、「제60회 전국도서관대회 가지 않을래?」(第60回全国図書館大会に行かない?)。

実はこれはよく知られた歌の替え歌で、原曲はシンガーソングライター、적재 (チョクチェ)さんが2017年に出した「별 보러 가자 (星を見に行こう)」です。俳優의 박보검 (パク・ボゴム)さんが2018年にCMソングとしてカバーし、ヒットしました。

ちなみにパク・ボゴムさんは、日本でも熱心なファンがいる、笑顔が素敵な俳優さんです。2014年に放映されたテレビドラマ『ネイルドカンタービレ』(『のだめカンタービレ』の韓国リメイク版)では天才チェリストの役、また2015~2016年放映のテレビドラマ『応答せよ1988』では天才囲碁棋士の役を演じていました。

KLA의 콧승진 (クック・スンジン) 会長から聞いたところでは、曲を作った方 (チョクチ



優秀図書館の表彰



出会いの場

エさんと思われる)と個人的に仲がいいので使わせてもらえたとのことでした。

替え歌といっても、歌詞をたった2ヶ所替えただけです。

- ・ 「僕と星を見に行かないか」→「僕と図書館大会に行かないか」
- ・ 「おしゃれな星座の名前は知らないけれど」→「おしゃれな図書館の名前も知っているよ」

もともとの歌詞の大意は、冷たい風の吹く夜、一緒に星を見に行かないかと彼女に呼びかける歌なのですが(YouTubeに日本語訳の字幕付きの動画があるので探してみてください)、この2ヶ所を替えただけで、みごとに図書館大会へといざなう歌になりました。

最近<sup>1)</sup> ラジオからたまたまこの曲が流れてきたのですが、もはや図書館大会に誘う場面が浮かぶようになってしまい、普通に聞けなくなってしまいました。パク・ボゴムさんの来日公演でもこの曲を普通に歌っていたりするのですが。

#### 4 発表の部

全部で58件あった発表は次の通りです。発表のタイトルのみを日本語に訳して示しました。実践報告が多いですが、学術的な発表もあり、内容の多彩さが見て取れると思います。担当した図書館や組織の名称、また発表者の名前などは省略しました。また、それぞれのタイトルのもとに、実際には80分の枠を使って複数の発表者がそれぞれ報告したり、後半に質疑応答が行われたりすることもあります。そういった詳細情報も省いていますので、必要ならばKLAのサイト<sup>2)</sup>でご覧下さい(ただし韓国語です)。

それぞれの発表について内容を見た上で訳しているわけではないことと、筆者の語学力の限界もありますので、誤訳や不十分な訳語があるかもしれませんがご容赦いただきますようお願いいたします。自分は(★)をつけた5つの発表を見てきましたので、それらについては後ほど紹介します。

10月18日(水)

16:40~18:00

- ・ AIによる図書館サービスモデルの研究および事例発表
- ・ クラウドコンピューティングを活用した主題ガイドおよび進路キュレーションサービス
- ・ 国立児童青少年図書館で探す青少年の未来
- ・ 2023年度図書館障害者サービス協力ワークショップ——DXの時代、図書館の障害者サービス
- ・ 学術資料画像のフェアユースプラットフォーム
- ・ 2023年イ・ビョンモクよい司書賞 受賞者セミナー
- ・ デジタルコンテンツ時代、図書館の電子書籍サービスはこのままでよいのか?
- ・ 利用者の観点に立った専門公共図書館の分類法の開発(★1)
- ・ 国会図書館特化サービスモデルの構築事例
- ・ 裁判所図書館の未来、司法知識情報
- ・ 教育庁図書館児童・青少年サービスの新しい道を探す
- ・ 第3回図書館発展総合計画2022優秀推進タスク共有会

10月19日(木)

9:00~10:20

- 学術情報流通の中心、大学図書館
- 国立図書館協力基盤 知識情報サービス 参加館によるワークショップ
- 図書館、転換のための会話
- AIで本を読むロボット「ルカ」を活用した、児童閲覧室を活性化する方法
- IB学校図書館を賢く運営：IB学校内の司書教師、学校図書館の役割と実例
- 広域代表図書館共同保存資料館の運営事例(忠南図書館を中心に)
- 読書サービスの専門家としての司書の専門性の強化策
- 障害者図書館の読書文化プログラムの事例発表
- 図書館サービスの新パラダイム、図書館ロボット
- 韓国目録規則第5版の改正方向と主な内容(★2)
- 海外所在の韓国古文献の収集と活用
- 図書館運営の優秀図書館事例の共有会

10:40~12:00

- 学術情報流通の中心、大学図書館
- <2023年4050<sup>3)</sup>の本の年>第4回「4050を含む図書館サービスの進化」
- 政策情報の最新動向ワークショップ
- 釜山図書館共同保存書庫の構築と資料整理の実際
- 地方オーラル・ヒストリーと図書館政策の方向性：解放村の人々の記憶の収集と活用に基づいて
- 独特で興味深いニッチコレクション
- コロナ後、人文学の重要性を知った利用者が図書館を見る視線
- 新しい図書館：ザルファ(Z+α)世代がやってくる
- 図書館がここまで？ ソウル市公共図書館の革新的な挑戦(★3)
- 小さい図書館<sup>4)</sup>支援センターの役割(LH小さい図書館を中心に)
- 研究資源の共有と活用：オープンサイエンス
- 第4次図書館発展総合計画(2024~2028)(案)説明会

13:40~15:00

- オンライン資料の収集政策の現状と未来の発展計画
- ブックスタート週間とシニアブックスタート
- 図書館におけるChatGPTの導入に対する司書の認識に関する研究
- 韓国・韓国人の記憶、コリアンメモリーキュレーションサービスの事例発表
- 2023年文献情報学4学会 共同学会大会(★4)
- 2023書店カンファレンス 第2回 図書館と書店の連携——再び出会う書店
- 図書館空間の革新、新しいパラダイムの提示
- わが国の創作童話に対する件名標目表の作成と件名の活用
- 「生き残る」のではなく「必要な」とされるために——未来型の小さい図書館のロールモデルに関する研究
- 韓国近代図書館100年のたどった道を概観する

- ・ 2023年度 公共図書館の発展および運営の活性化に関するセミナー
- ・ 目の前に迫った図書館登録制、一体誰のためのものか？

15：20～16：40

- ・ 司書のための AI リテラシー
- ・ みんなのための読書会——図書館になかなか来られない人と一緒に読書会をできるか？
- ・ 図書館データと研究開発の事例発表会（★5）
- ・ データリポジトリ認証戦略
- ・ 2023年文献情報学4学会 共同学会大会（続き）
- ・ 共にする<sup>5)</sup> 大活字本の未来——製作から活用まで
- ・ 図書館空間——新しいパラダイム
- ・ 図書館プラットフォームの連結で新たな可能性を想像する
- ・ 出版コンピュータネットワークの活用案内（新刊・近刊図書を早く探す）
- ・ 「図書館空間に特別さを盛り込む」——2023年特化図書館活性化セミナー
- ・ 図書館、地域社会を変える

## 5 発表の内容

以下では、実際に参加した5つの発表について、概要を紹介します。

### ★1 セミナー「利用者の観点に立った専門公共図書館の分類法の開発」

韓国では、公共図書館でありつつも、地域の特性等を考慮して、音楽・美術・外国語など、ある特定の専門分野に力を入れた「特化図書館」が増えています。2021年6月に市内の6番目の特化図書館として開館した<sup>ウイジョンブ</sup>議政府市立音楽図書館もその1つで、音楽資料（図書・楽譜・CD等）の特化図書館です。もと米軍基地の街だったこともあり、ジャズやR&B、ヒップホップなどになじみが深い地域とのことで、それ以外のジャンルも含め、音楽に関する図書や、CD・レコードなどの音盤資料を多く所蔵しています。

韓国ではKDC（韓国十進分類法）が広く用いられていますが、多数の音楽資料を分類・排列しようとする大雑把すぎ、音楽資料の6割以上が「西洋大衆音楽」の673.53に集中してしまいます。また、KDCの「音楽」はクラシックは分類しやすいがポピュラーは分類しにくい傾向があります（NDCもそうですね）。

そこで、音楽の専門家と司書が話し合いを重ね、9次にわたって音楽資料の分類法を作っていました。第1段階としてまず現行のKDCの分析と問題点の抽出から始め、第9段階ではMLDC（音楽図書館十進分類法）第7版を作ったそうです。記号はアルファベット1文字+数字2桁で構成されています。

館内のサインもそれを活かして工夫しており、大分類（アルファベット1字）が色違いで目に入り、ぱっと見てわかりやすくなっています。いずれ訪問してみたいと思いました。

### ★2 セミナー「韓国目録規則第5版の改正方向と主な内容」

こういってはなんですが、こんな地味そうな、そしてかなり学術的なテーマなのに、60席の会場がほぼ埋まっていたのには少々驚きました。発表者は韓国図書館協会目録委員会の委員長であり、全南大学校文献情報学科教授の김정현（キム・ジョンヒョン）先生。



IFLA が FRBR を出して以来、図書館目録に対する基本的な考え方はこの 20 年あまりで大きく変化しました。そんな中、韓国目録規則 (KCR) も 20 年ぶりに第 5 版で大きな改正を予定しています。その方向性や内容を、目録委員会の委員長が分かりやすく説明。任期の切れる 2025 年夏までには正式刊行にこぎつけたいとのこと。また改正に当たっては、韓国よりも一足早く改正版を刊行した日本目録規則 (NCR) 2018 年版がかなり参考になったとのことです。

### ★3 セミナー「図書館がここまで？ ソウル市公共図書館の革新的な挑戦」

ソウル市立図書館 5 館の事例発表です。コロナ禍を経験する中で、図書館サービスも従来の範囲にとどまらず、オンラインや屋外にサービスの場所を拡大してさまざまなサービスを展開しました。特に 4 番目の発表は、ソウル市 <sup>ウンピョン</sup> 恩平区立の詩文学特化図書館である「내를 건너서 숲으로 도서관」(川を越えて森へ図書館) という館の事例だったのですが、まずその図書館名をきいてびっくり。「川を越えて森へ」これは、韓国人なら誰でも知っている詩人、윤동주 (尹東柱=ユン・ドンジュ、1917-1945) の『새로운 길 (新しい道)』という詩の冒頭の一節なのです。

玉川学園で発行している『全人』という月刊誌があるのですが、これの 2023 年 11 月号の企画として、いろいろな教員におすすめ本を 3 冊ずつあげてもらおうというものがあり、さんざん悩んだあげく岩波文庫の『空と風と星と詩 尹東柱詩集』を紹介する原稿を書いたばかりだったので、タイミングのあまりの良さに驚きました。

ちなみに、彼は太平洋戦争中の 1942 年 4 月から半年間、立教大学文学部英文学科に在籍していました。その後同志社大学に移り、在学中に逮捕され、福岡刑務所で獄死しています。立教大学では、彼の命日である 2 月 16 日の前後に、詩の朗読や講演などの追悼行事が行われていますので、ご存じの方もいらっしゃるでしょう。

というわけで、この図書館は、尹東柱生誕 100 周年を記念して開館した、詩文学の「特化図書館」です。発表内容は、コロナ禍でもやることはあるというわけで、おりしも進行中の地域再開発に関連して、地元の歴史を文献



川を渡って森へ図書館



ユン・ドンジュの行跡。地図の右奥に年譜が続く



図書館の向かい側では再開発工事が進行中。その外壁に掲示された「新しい道」の全文

や写真で残したり、昔を知る人の話を聞き取ったりするなどの地域情報のデジタルアーカイビングを進めたり、オンラインで地域住民が詩を朗読するなどのさまざまなオンラインコンテンツを充実させたり（YouTube に「星を歌う心で」という一連の動画を連載中。←このシリーズ名も尹東柱の詩の一節）といった事例の紹介だったのですが、これは実際に行ってみないと。

というわけで、当初の予定では、帰国する前にソウル市内の大型書店によっていろいろと本を買う予定でしたが、本なら日本からでも（送料はかかるが）買えるのに対して、図書館を実際に訪問するのは日本には不可能なので、書店をやめにしてここを訪問することにしました。

大会とは関係ないので詳細は省きますが、3階建てで1階は児童室、2階は一般室、そして3階は古今東西の詩集や、詩に関する図書など、すべて詩に関する資料です。そして、館内の至る所に尹東柱の詩が掲示されていたり、写真があったり、彼の生涯が展示されたコーナーがあったり、詩の朗読が聞けるようになっていたり、まさに詩をテーマとした特化図書館でした。突然の訪問客にもかかわらず快く案内していただき、カレンダーやマグカップなどの記念品までいただきました。なお、この地に建てられた理由は、尹東柱がいつか通っていた、平壤にあった中学校が、朝鮮戦争の時にソウルに避難（疎開）してここで開校したというゆかりの土地だからとのことでした。お忙しい中説明していただいた司書の皆さん、ありがとうございました。

#### ★4 文献情報学系4学会共同学会大会 テーマ「文献情報学教育に現場が求めるもの」

日本では図書館情報学といいます。韓国では文献情報学といういい方が一般的です。その4学会が一堂に会して行う「共同学会大会」で、今年のテーマは「文献情報学教育に現場が求めるもの」です。まず第1部では、公共図書館、専門図書館、大学図書館などの館種別に、それぞれの現場で求められる司書の力量を強化するためには、司書資格制度はどうあるべきか、また大学の司書教育は何ができるかに関する5件の発表がありました。1番目は「司書の力量強化のための司書資格制度および教育課程の改善方向」。これを含め、5つとも日本の司書・司書教諭課程のあり方を考える上でも示唆するところが多いように感じました。

このあと休憩を挟んで、第2部では参加者を4組に分けたグループディスカッションをしますが、そちらは失礼させていただき、次の会場に移動しました。

#### ★5 セミナー「図書館データと研究開発の事例発表」

図書館が発信しているさまざまなデータの利活用、逆にいわゆるビッグデータをどのように図書館の活動に生かしていくか等の事例発表。

1番目の発表は「国立中央図書館の国家書誌の LOD」。書誌情報をはじめとして様々なデータを LOD (Linked open data) 化して提供しているとのこと。

会場が沸いたのは、3番目の発表「賢いGPT活用」の中で紹介された、生成型AIの「幻覚 (ハルシネーション)」の事例でした。

Q：朝鮮王朝実録に記録された、世宗（セジョン）大王が MacBook Pro を投げ捨てた事件について教えて。

A：セジョン大王の MacBook Pro 投げ捨て事件は、歴史文献である朝鮮王朝実録に記録されているエピソードで、15世紀の朝鮮王朝時代に、セジョン大王が新たに開発した訓民



正音（ハングル）の草稿を作成している最中に、文書作成が中断させられたので、怒って担当者に MacBook Pro と一緒に草稿を室内に向かって投げた事件です。

セジョン大王は訓民正音の開発のために熱心に努力していましたが、その最中に、ハングル文字を理解できない当時の官僚たちが文書作成の手助けにと任命した企画官の1人であるチェ・ファン（崔煥）に、作成中断の事実を聞かされました。セジョン大王はこれに怒りチェ・ファンを呼びつけ、MacBook Pro を自分でも持って彼を部屋に呼び入れて叱責しました。それ以降、セジョン大王は訓民正音の草稿作成を別の担当者に変えることになりました。

この事件は、朝鮮時代の統治者としてセジョン大王がいかに民族文化を発展させるために努力していたかを見せてくれるエピソードとして有名です。また、セジョン大王の情熱と業務処理に対する徹底した態度を見せてくれる事例としても言及されています。

念のため補足しておきますが、これは史実とは異なります（と書かないと分からない人たちがそのうち表れるかもしれませんね。いうまでもなく15世紀にMacBookはありません）。チャットGPTはめったに「分かりません」と回答せずに、嘘でもいいからもっともらしいストーリーを「生成」してくる、という話の流れで紹介された事例です。ただ、セジョン大王が15世紀の朝鮮王朝時代にハングルを開発したとか、朝鮮王朝の出来事は公式の歴史書である『朝鮮王朝実録』に編年体で記録されているとか、断片的には正しいことが書いてあるので、分かって読めば面白いのですが、知らずに読むとだまされてしまいます。

なお、チャットGPTもその後学習したので、今では同じ質問をしても「そのような事実はありません」と答えてくるようになったとのことでした。

展示会場やポスターセッションについては、発表の合間に見に行くしかなく、またJLA理事長代理としてのミッションがあったり、韓国の先生方との食事会をセッティングしていただいたりしたので、駆け足でしか見ていませんので、これも詳細は省きます。ただ、ざっと見て回るだけでも、興味深い製品や、図書館のユニークな活動など、韓国の図書館界の現在の生きた姿が見られ、熱意が伝わってきて、こちらまで元気になります。

## 6 第3日（10月20日）

この日は、会場内での行事はありません。①バスをチャーターして地元の図書館を探訪 ②各自で個別に地元の行きたい図書館を訪問 ③チェジュ島のウォーキングトレイルを歩く、のいずれかです。私は①のBコース（AとBの2コースあり）を選びました。KLAの事務総長の이재선（イ・ジェソン）さんも同じコースを選ばれたのですが、実は彼女はたいへん日本語が堪能で、日本に留学していたこともあるとおっしゃっていました。

訪問先は、이중섭미술관（イ・ジュンソプ美術館）、제주도서관（チェジュ図書館）、별이내리는숲도서관（星の降る森図書館）、한라도서관（ハンラ図書館）です。以下簡単に述べます。

イ・ジュンソプ（1916-1956）は画家です。日本人の女性と結婚しました。

当時住んでいた家が保存されています。隣には美術館があり、館長さんに説明していただきました。妻子を東京において1人で暮らしていた時期に日本語で書かれた手紙が展示してありました。

次に、島を横断して北側のチェジュ市立チェジュ図書館に向かいました。

まず本館の方から見学。ブックトラックには「読み終えた本は私に下さい」と書いてあります。「ここに置いて」よりおしゃれかも。

休憩室がありました。窓際のカウンターにスツールが並んでいて、飲み物はOK、食べるのはダメ。血圧計も置いてありました。

本館の左隣には「星の降る森図書館」が建っています。チェジュ図書館の児童部門なのですが、あえて独立した建物にして、別の名前にしています。

1階から2階に上る階段が席を兼ねており、また側面は書架になっています。韓国の図書館ではこういうスタイルの設計が流行っているのかもしれませんが。ソウル市の中央図書館でも見ましたし、翌日訪問する「川を渡って森へ図書館」にもありました。

少し移動してハルラ図書館に着きました。ここは休館日だったので利用者はいないのですが、大会参加者のためにわざわざ開けてくださいました。館長さん自らお出迎え。

ここは15年ほど前に建てられた図書館なので、館内の作りがわりと伝統的な図書館のイメージに近いですね。また、ここにも血圧計がありました。

この見学が終わると、司書さんの運転する車に乗せられてチェジュ空港まで送っていただきました。

空港の観光案内所の横に、島内のさまざまな観光地や施設などのパンフレットを集めたコーナーがあり、手に取る観光客が途切れることがありません。やっぱり紙の資料って便利ですよ。写真を撮ろうと思って待っていたのですが、入れ替わり立ち替わり、常に誰かがパウフレットを見ている。誰もいなくなるまでに20分かかりました。



ソウルに向かう飛行機の便まで空き時間があったので、少し空港周辺の観光をしたのですが、もはや図書館とは関係ないので、省略しましょう。

なお、翌日ソウル市内の「川を越えて森へ図書館」を訪問したことは前述のとおりです。

人がいなくなるまで20分かかった観光パンフレット置き場。チェジュ空港にて

## 7 参加方法など

さて、この報告を読んで、自分も参加してみたいと思われた方もいらっしゃるかもしれませんが。今回は先方からの招待を受けて参加したので、参加そのものについては特段の手続きはありませんでしたが、最初に述べたように、2012年の大会には純粋な一個人として参加しましたので、外国人であっても参加は可能です（ただ、私以外にはいませんでした）。少しそのへんについて説明しておきましょう。

まず、大会に関する情報はすべて、KLAのサイトの中にある大会専用ページに随時掲載されますので、まめに見に行きましょう（当然、すべて韓国語です）。前の年のプログラムもPDFとしてアップされているので、読んでおくとも良いでしょう。参加申込はそのフォームに必要事項を記入して送信します。申込期間は、去年の場合は8月7日～9月22日で、それを過ぎると当日受付になります。なお、申し込んだ後も、外国からの参加はレアケースなので、協会と何度かメールのやりとりをした覚えがあります。

参加費は、韓国図書館協会の口座あてに海外送金します。2023年の場合、KLAの会員は

10万ウォン、非会員は20万ウォン、大学生（学部生に限る）は1万ウォンです。2012年の時は、韓国系の銀行に行って送金しましたが、今ではいろいろな方法があるので、調べてみるとよいでしょう。

飛行機や特急など交通機関の予約、宿泊の斡旋などはKLAでは特に行っていませんので、すべて自力で行う必要があります。2012年の時は、自分がソウルに行くときによく利用していた安いホテルをインターネットで予約し、そこから地下鉄で通いました。

通訳についてもふれておきます。今回は来賓扱いのため、実は先方が通訳を付けてくれました。ただし、いろいろなセミナーやシンポジウムなどの発表の時は、原則として訳さなくていいですよ、分からなかったときだけ合図するので訳してください、と予めお願いしておきました。実際、紙の資料やパワーポイントの投影もあるので、図書館に関する話題はだいたい分かったように思います。特に、目録規則の改正に関する発表は、内容が非常にテクニカルなので、こういっては何ですが、たとえプロの通訳でも、情報資源組織法を学んだことのある通訳でないと、かなり困難だったのではないのでしょうか。また、80分の発表が全部で5回あって、そのすべてをずっと訳していたら周りもうるさくて気が散るのではという心配もありました。

そのため、2日目の最後に「いままでで一番楽な仕事でした」と言われて、ちょっと申し訳ないような気持ちにもなりました。というのは、プロの通訳はさまざまな会議に派遣されるので、それぞれの専門分野の用語や表現を前もって予習して仕入れておくのが一般的だからです（今回も、かなり早い段階で、セミナー等の発表は訳さなくてもいいですよと伝えてありましたが、一通り予習されたとのことでした）。

とはいえ、発表資料にない雑談の内容とか、みんなでサムギョプサルを食べに行ったときの会話など、通訳がいてくれると心強かったのも事実です（日頃から、韓国語のインプットが図書館情報学関係に偏っているための弊害ですね。なんとかアンバランスを解消しようと少しずつ勉強してはいるのですが）。また、そういう場面での話題もそれなりに図書館関係が多いので、通訳の方の予習も無駄にはなっていないと思いました。

一方、一般参加の時は、当然ながら通訳はつきませんので、すべて自分で何とかする必要があります（発表を聞いているときは、いきなりフロアに振られるようなことはめったにないので、語学力がなくても、せいぜい自分がつまらない程度で、まわりを困らせることはないと思いますが）。それでは、どの程度の語学力が必要かというと、

- KLAのサイトに書かれている情報が特に苦勞せずに理解できる
- 協会の担当者とメールのやりとりができる
- 韓国国内をさほど苦勞せずに一人旅ができる
- 図書館に関するさまざまな用語を知っている

といったところでしょうか。

今では、2012年当時に比べると、機械翻訳の精度も上がり、ポケット通訳のような小型装置もいろいろと出ています。スマートフォンで同様の機能を実現することも可能です。ただ、大会の発表を聞いたり、ポスターセッションの掲示を見たりするとなれば、機械翻訳は時として妙な訳し方をすることがありますので、少なくともそれに気づける程度の語学力は必要でしょう。

一般的な語学力では、おそらく立教大学の朝鮮語の3年目や4年目のコースを受けていれば大丈夫かなと思います。また、図書館に関する用語を学ぶには、やはり実際に本や雑誌を読むのが早道です。日本の『図書館雑誌』に相当する『図書館文化』は、韓国図書館協会の

サイトで電子版が無料で読めます。また、『文献情報学概論』のような、司書課程の基本的なテキストを読むのも良いでしょう。

あともう1冊、韓国語で読む図書館入門書を1つ挙げるとしたら、홍은자 저 “나는 도서관 사서입니다” (ホン・ウンジャ著『私は図書館司書です』、2021年6月刊)をおすすめします。著者は大学図書館・専門図書館を経て現在は公共図書館勤務。中高生向けに、図書館はどんなところで、司書はどんな仕事をしていて、どうやったら司書になれるかをやさしく説明しています。説明は易しいですが、図書館の歴史についてもきちんと触れていたりして、なかなか深みのある内容の本です。著者は「司書？ 楽そうだね」とよく言われ、そのたびに「司書ってのはあなたが思っているほど暇な仕事じゃないんだよ」と言いたくなるのがよくあるので、本書を書こうと思ったそうです。

これを読んで、韓国の図書館大会に参加する日本人が1人でも増えてくれたら、たいへんうれしく思います。

### 【文献】

한국도서관협회 [韓国図書館協会] <https://www.kla.kr/kla/>  
제 60 회 전국도서관대회·전시회 [第 60 回 全国図書館大会・展示会]  
<http://conference.kla.kr/>

大会に関するさまざまな情報やデータは、これらのサイトによりました。ただし、個別に出典を示すと煩雑になるため省略しました。

- 
- 1) 2024年4月14日19時10分頃。ソウル市が運営する放送局、TBS（交通放送）のFM ラジオにて。
  - 2) [https://conference.kla.kr/kla\\_con\\_2023/bbs/content.php?co\\_id=menu0501](https://conference.kla.kr/kla_con_2023/bbs/content.php?co_id=menu0501), (参照 2024-04-18)
  - 3) 年齢が40～50代の世代の人々のこと。
  - 4) 図書館法で定められた館種の1つ。「住民の参与と自治を基盤とし、地域社会の生活に親和的な図書館サービスを提供することを主たる目的」(図書館法第4条第2項第1号)とし、詳細は「小さい図書館振興法」で定められている。
  - 5) 原文함께하는. 辞書的な訳語としては「共にする」だが、文脈によって実にさまざまなニュアンスで使われる、訳しにくい語である。放送の中で企業が番組を「提供する」という代わりに「この番組は〇〇社が共にします」などといったりする。顧客や弱者などに「寄り添う」という意味合いの場合もある。また、今回の大会のスローガン中「ともに歩む」と訳した箇所も原文では同じ語である。ここでは、読者に寄り添う、利用者中心の大活字本というニュアンスであろう。